

平成30年度版 改善計画

学校名： 県立巨摩高校

No	項目	現状と課題	H31年度に目指すべき状態	①H30年度に実施する内容 ②H31年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	昨年度会議の効率化と削減はある程度効果をあげたといえる。しかし、未だに二時間を超える会議が行われているなどまだまだ効率化を進める余地はある。そのためには、出席している各々の職員が短時間で有意義な議論を進めるための意識を持つ必要がある。	○会議の終了時間が設定されており、二時間を超える会議は実施されていない。 ○参加者各自がその会議で決定すべきことを明確に意識しており、短時間で議論を進めるための努力をしている。	①左記二点を全ての会議において試行的に実践する ②会議出席者の当事者意識を高めるためにどのような方策が可能か	
2	学校行事の負担軽減	昨年度、特定時期に集中している行事や大会の分散化に取り組んだが、外部団体や利用施設の関係で取組は進まなかった。分散化を図るのではなく多忙期を予測した事前業務の準備に取り組むことが負担軽減の現実的な対策であるようだ。	○年間を通じた多忙期の予測がつき、それを見越した事前の業務準備が行われている。	①職員の出退勤記録調査等を元に月間ごとの業務軽重変動を可視化し職員にフィードバックすることで、先を見越した業務配分の習慣化を促す。 ②①をもとに、多忙期を予測した業務配分モデル提案の可能性を探る。	
3	校内組織の見直し	昨年度実施した大幅な分掌改善にマイナーチェンジを加えながらしだいに機能する体制が出来上がりつつある。この流れを推進することが必要。	○今年度マイナーチェンジした分掌が機能している。	①業務引継書を日々見直すことで前例にとらわれない改善を行う。 ②分担業務の見直しを継続し負担格差の改善を検討する。	
4	業務の効率化	情報共有が十分なされていないため類似した業務を重複して行っている。なお、上記2で述べたこともこの項目に強い関連があると思われる。	○アクセスしたい情報が明確にされ共有されている状態。 ○上記項目2との連動が実感できている状態。	①共有したい情報の洗い出し	
5	部活動の負担軽減	年間80日以上のお休みの部活動をしている部顧問はH28年度の10名からH29年度には4名に減少した。しかし、依然として特定の部活動では過剰勤務がつづいている。	○科学的根拠に基づいた効率的練習メニューの取組を全ての部活で行っている	①集中力を高めた短時間の練習で効果をあげる方策を、部活顧問が積極的に研究する。	
6	地域人材の活用	文化部、体育部あわせて15名の外部指導者を活用する予定である。登下校の交通指導には保護者、地域の協力が必要である。	○交通安全の街頭指導等が保護者、地域警察等協力の下実施されている。	①登校時の安全運転指導に保護者ならびに地域警察(南アルプス署交通課)の協力を仰ぐ。	
7					
8					

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった